

第二十回大会までの歩み

筑波大学哲学・思想学会学術大会は、平成十一年度の大会で二十回目を迎えることになりました。これを機会にこれまでの大会の歩みを振り返ってみました。

創立大会

昭和五十五年十二月六日(土)

筑波大学第一学群D棟

〔研究発表〕

- 1 カントの自由論 河口 伸
- 2 Schopenhauerについて 中平 浩司
- 3 『現代の批判』(キルケゴール)の提起する問題局面をめぐって 河上 正秀
- 4 山片蟠桃と茫緱 —無鬼論と神滅論— 柳沢 南
- 5 新宗教の宗教意識と聖典 —『おふでやわ』の文体について— 島蘭 進
- 6 P・ティリッヒ神学における存在論の役割について 新藤 泰男

世界史の哲学について

東京教育大学名誉教授 下村寅太郎氏

第二回大会

昭和五十七年三月十七日(水)

筑波大学人文・社会学系棟

〔研究発表〕

- 1 現代法哲学における方法論について —N・ルーマンの理論を中心として— 青山 治城
- 2 キケロにおける雄弁と知の結合関係の意義 伊藤 益
- 3 古ウパニシャッドにおけるアートマン観とその発展 高木 哲也
- 4 キリスト教非戦主義の国家観 —メノナイト派を中心にして— 中野 毅
- 5 体系と現実 —イエーナ期ヘーゲルの歴史哲学— 笹澤 豊
- 6 Comparative Studies of Buddhism and Christianity Brian Bocking
- 7 F・ペーコンについて 石井 栄一
- 8 鈴木重雄著『幽顕哲学』に見られる日

本的性格の基礎理論について

二瓶 孝次

第三回大会

昭和五十七年十二月十一日(土)

筑波大学人文・社会学系棟

〔研究発表〕

- 1 日常生活世界と宗教 —現象学的社会学派の批判的考察— 星川 啓慈
 - 2 現象学的還元について 岸 恭博
 - 3 「周易」繫辭伝の倫理思想 佐藤 貢悦
 - 4 普遍について 荻原 欒
- 「シンポジウム」
テーマ「現代社会において思想はいかに生きるか」
司会 高木勘次
発題者 村奈範通、新藤泰男、館野受男、高橋 進、中埜 肇

〔記念講演〕

第四回大会

昭和五十八年十月二十九日(土)

筑波大学人文・社会学系棟

〔研究発表〕

第一会場

1 デカルトの延長と力について

中村 康子

2 カントの物自体説に関する一考察

木村 勝彦

3 メソディズムの権威をめぐる一考察

山中 弘

4 H・R・ニーバーの類型論

柴田 史子

5 中江藤樹の門弟たち

柴田ソノカ

6 老子の「道」について

内村 嘉秀

7 「パンセ」の読み方について

飯塚 勝久

第二会場

1 フレーゲに於ける逆理について

金子 浩和

2 C・Gユングの「心的現実」の立場について

渡辺 学

3 デイルタイにおける「了解」の一考察

森本 司

4 プロティノスにおける三つのヒュボス

タシスについて

金井多津子

〔公開講演〕

ホモ・サピエンスとホモ・ルーデンス

ードイツの大学と日本の大学―

早稲田大学教授 川原栄峰氏

第五回大会

昭和五十九年九月二十九日(土)

筑波大学人文・社会学系棟

〔研究発表〕

第一会場

1 『純粹理性批判』の自由論をめぐる

パッチワーク・セオリーについて

保呂 篤彦

2 カントの感覚論

森本 義裕

3 ヘーゲルのイェーナ初期の反省概念

澤味 進

4 「生活世界」へのまなざし

岸 恭博

5 制度的宗教と民俗宗教

山中 弘

第二会場

1 ニーチェのソクラテス像

―『悲劇の誕生』及び『人間的なま

りに人間的なもの』において―

菅野 孝彦

2 デイルタイにおける「了解」と「構造

連関」との関わりについて

森本 司

3 現人神思想の一側面

伊藤 益

4 「神に似ること」と「神となること」

金井多津子

5 江戸時代民家の「天命」論争

―吉益東洞とその周辺― 丸山 敏秋

日本語と日本文化

学習院大学名誉教授 寛 恭彦氏

第六回大会

昭和六十年十一月九日(土)

筑波大学人文・社会学系棟

〔研究発表〕

第一会場

1 ガダマーとリクール

―蓋然性の存在論的基礎―

2 ヘーゲルにおける自己意識の問題

卷田 悦郎

3 デイルタイにおける發生論

飛田 満

森本 司

4 インドにおける神の存在論的証明と仏教論理学 小野 基

5 自然的世界概念と自然的態度
—アヴェナリウスとフッサール— 岸 恭博

第二会場

1 カール・ポツバーの進歩概念

阿内 正弘

2 『力への意志』第一書ヨーロッパのニヒリズムの構成について 菅野 孝彦
3 プロティノスにおける「見ること」の意味について 金井多津子

〔公開講演〕

仏教の人間観

東京大学名誉教授 平川 彰氏

第七回大会

昭和六十一年十一月八日(土)

茗溪会館

〔研究発表〕

1 数学における一つの構成概念

金子 浩和

2 現象学的還元について 鈴木 康文

3 シェーラーと原グノーシス主義

4 アリストテレスにおける「アルキテクトニケー」について 石井 雅之

5 S・キルケゴールにおける真摯の概念について
—M・トイニッセンの解釈—

倉内 利美

6 C・G・ユングの元型概念の多重性

渡邊 学

7 *physis*と*bios*

—『エンネアデス』Ⅲ・8を中心に—

金井多津子

〔公開講演〕

哲学と文化

東京大学教授 伊東俊太郎氏

第八回大会

昭和六十二年十一月七日(土)

茗溪会館

〔研究発表〕

1 A・ワッツの禅理解について

木村 武史

2 シェーラーの近代観

阿内 正弘

3 リクルールの「素朴な了解」概念
卷田 悦郎

4 七十年代以降のドゥルーズの歩みについて 小谷 晴勇

5 シェリングの中期思想における歴史観

高尾 由子

6 ヘーゲルの「イエーナ論理学」の反省概念について 澤味 進

7 家族的類似性の概念が意味するもの

坂口 恭久

8 フッサールの現象概念

鈴木 康文

9 ウイリアム・ジェイムズにおける「意識」の機能について 良峯 徳和

〔公開講演〕

和辻倫理学の原点

御茶の水女子大学名誉教授 勝部真長氏

第九回大会

昭和六十三年十一月十二日(土)

筑波大学学生会館特別会議室

〔研究発表〕

1 キルケゴールとヘーゲル

—『あれかこれか』を中心として—

平林 孝裕

2 初期ヘーゲルにおける強制力としての「国家」

石戸谷 信

3 フーコーの歩みをめぐって

4 ジェイムズ空間論 小谷 晴男

5 死の研究(臨終体験)の宗教的意味 良峯 徳和

6 中世におけるタルムード研究の伝統 カール・ベツカー 市川 裕

7 キルケゴールにおけるレッシング像

―『哲学的断片』への完結的非学問的後書き』を中心として― 谷口 郁夫

8 アナクサゴラスの〈知性〉 目的論とのかかわりについて―

廣川 洋一

〔公開講演〕

世界内存在と超越

京都大学教授 上田閑照氏

第十回大会

平成元年十一月十一日(土)

茗溪会館

〔研究発表〕

1 スピノザの現代性とは

―現代のスピノザ・ルネッサンスの意味するもの― 浅野 俊哉

2 初期ヘーゲルにおける「自然」、「所

有」、「国家」 石戸谷 信

3 両性具有のシンボリズムと女性教祖 宮本要太郎

4 言語表現からみたニーチェ 菅野 孝彦

5 現代ドイツにおける自己意識理論の一局面 飛田 満

6 〈出来事と意味〉の弁証法と歴史性 ―リクール解釈学の形成過程―

7 漢代思想の一側面 鄭玄の『詩経』解釈について― 堀池 信夫

―近世の場合― 東京教育大学名誉教授 下村寅太郎氏

〔公開講演〕

学問体系の精神的性格について

―近世の場合―

東京教育大学名誉教授 下村寅太郎氏

第十一回大会

平成二年十月十三日(土)

筑波大学大会館特別会議室

1 忘却としての永劫回帰 鈴木 克成

2 クセノパネーアの神観 小野寺 郷

3 ヘーゲルの「主人と奴隷」の弁証法 飛田 満

4 シェーラーにおける「価値の専制」 阿内 正弘

5 プロテイノスにおける個々の魂、特に人間の魂の位置づけについて 田子多津子

〔公開講演〕

型と日本文化

国際基督教大学教授 源 了圓氏

第十二回大会

平成三年十月二十六日(土)

筑波大学人文・社会学系棟

〔研究発表〕

1 イエズス会士による『四書』の翻訳・紹介 井川 義次

2 スピノザにおける主体概念の特殊性 浅野 俊哉

3 「中心」のシンボリズムの形而上学的意味についての幾つかの考察 リアナ・トルファシュ

4 シェリングの超越論的観念論における絶対者と有限者 高尾 由子

5 道徳形而上学の基礎づけとしての『純粹理性批判』 ―その初版および第二版における道徳

哲学と超越論哲学の關係についての論
述をめぐって― 保呂 篤彦

6 現代中国の孔子批判

― 仁について―

別府 淳夫

〔公開講演〕

日本的宗教観の問題

東京大学名誉教授・

比較思想学会会長 田丸徳善氏

第十三回大会

平成四年十月二十四日(土)

筑波大学人文・社会学系棟

〔研究発表〕

1 禅の哲学的解釈をめぐって

― 西田における純粹経験・直接的知識

の神話― ジョセフ・ジョンソン

2 インド思想における蜘蛛のシンボリズムについて

リアナ・トルファシユ

3 カントの現象論 森本 義裕

4 「コギト・スム」と主体性の形而上学

― ハイデッガーとデカルト―

5 巡礼父祖の歴史的、思想的起源をめぐって

岡田 道程

中野 毅

6 ベルクソンの神秘主義理解について

〔公開講演〕

棚次 正和

プラトン哲学の現在

九州大学教授 松永雄二氏

第十四回大会

平成五年十月三十日(土)

筑波大学人文・社会学系棟

〔研究発表〕

1 ハーバーマスの「生活世界」概念

五十嵐沙千子

2 法然の選択本願念仏説について

清水 邦彦

3 道家思想における「知ること」と「存在」の合一という概念について

リアナ・トルファシユ

4 K・ローレンツの「進化論的認識論」における「態度」の問題

森本 司

5 道徳批判と構成主義的倫理学

― ニーチェ／スピノザの同一性と差異―

浅野 俊哉

6 『精神現象学』の研究史をめぐって

飛田 満

7 デネットのヘテロ現象学について

信原 幸弘

〔公開講演〕

神に近づくとはいかなることか

― ヘーゲル『精神現象学』の生成と構造―

東北大学教授 上妻 精氏

第十五回大会

平成六年十月二十九日(土)

筑波大学人文・社会学系棟

〔研究発表〕

1 スコーレム化のパラドックス

中村 正利

2 ベルクソンにおける物質論の生成と個性化

永野 拓也

3 夢体験の構造と夢解釈の創造性

海山 宏之

4 千年王国論的民衆運動

竹田洋一郎

5 朱子における「心」

嚴 錫仁

6 思想受容の意義

― 二十世紀初頭キルケゴール思想―

河上 正秀

〔公開講演〕

哲学と宗教の根底にあるもの

東京大学名誉教授 玉城康四郎氏

第十六回大会

平成七年十月十四日(土)

筑波大学人文・社会学系棟

〔研究発表〕

- 1 デカルト哲学と象徴主義 名須川 学
- 2 横井小楠の中国観について
- 3 宗教における身体・宇宙の「対応」の問題 陳 衛平
久保田将之
- 4 Corpus dionysiacum におけるシンボルの形而上の基礎づけについて
リアナ・トルファッシュ
- 5 キルケゴールの《実存》再考 平林 孝裕
- 6 在ることの主観的定位
―「見ゆ」の意義― 伊藤 益
- 7 ホワイトヘッド・華厳・西田 竹村 牧男

〔公開講演〕

- 主体概念の誕生
―中世スコラ学と神秘思想における超越論哲学―
上智大学教授
クラウス・リーゼンフーバー氏

第十七回大会

平成八年十月十九日(土)

筑波大学人文・社会学系棟

〔研究発表〕

- 1 山崎弁栄の宗教体験と「光明主義」運動
―宗教学からの一考察― 鶴澤 潔
- 2 新世界の悪魔の宗教学的問題 谷口 智子
- 3 心と機械
―ゲーデルの不完全性定理の哲学的インプリケーション― 宇野 光範
- 4 カントにおける現象 榊矢 桂一
- 5 人はいかにして虚偽を志向しうるか
―ニーチェにおける、意欲と認識の裂け目― 鈴木 克成
- 6 ロムバツハ構造存在論における世界概念 竹村喜一郎

〔公開講演〕

- 和辻哲郎の世界
前日本倫理学会会長 市倉宏祐氏
- ## 第十八回大会
- 平成九年十月二十五日(土)
筑波大学人文・社会学系棟
- 〔研究発表〕

1 「第五省察」におけるフッサールの自我概念

―他我構成論における二義性をめぐって―

小林 秀樹

2 ゼノン『国家』の理論的位置

上田 慎一

3 キリスト教寺院のシンボリズムについて
リアナ・トルファッシュ

4 ゲームの問題

―その哲学的意味― 神山 和好

5 荀子思想の構成と体系について 佐藤 貢悦

〔公開講演〕

生者の癒し・死者との共食
―エチオピアの旅から―

宮城学院女子大学教授 山形孝夫氏

第十九回大会

平成十年十月三十一日(土)

筑波大学人文・社会学系棟

〔研究発表〕

- 1 「たたり」の存在論的意味について
喜田川仁史
- 2 宮沢賢治における宗教とことば
―童話集『注文の多い料理店』にお

ける物語の発生――

佐藤 郁之

3 「全体」の生き生きした把握

佐藤 幸三

4 アリストテレス倫理学の進展と友愛論

石井 雅之

5 近代日本における初期キリスト教「聖

霊派」について

池上 良正

〔公開講演〕

「過去の實在」再考

東北大学教授 野家啓一氏

*なお、第二十回大会については、彙報
をごらんください。